

要求仕様の理解と妥当性確認のための議論の内容を構造化し即時記録するためのモデル

NTTコムウェア株式会社 三成竜也 minari.tatuya@nttcom.co.jp

プロジェクト管理上の問題点

ソフトウェアの要求仕様に含まれる曖昧さや、その要求内容に対する開発担当者らの理解不足などによる設計不良が、プロジェクトマネジメント上の大きな問題となっている。特に、営業担当者が纏めた要求仕様の不備やそれへの理解不足により、開発したシステムが顧客要求を満たさず、修正が必要となる場合が少なくない。

支援ツールの開発による解決

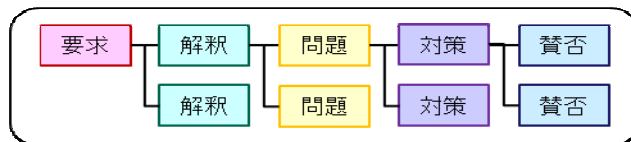
左記の問題点を解決するために、開発が本格化する前に、経験豊富な主要メンバ(数人)が集まって、要求仕様の内容理解と妥当性確認のための議論を行い、要求仕様の不備を指摘・修正するとともに、議論で得られた要求仕様に対する理解を開発メンバ全員で共有できるようにすることが重要である。

提案するモデル

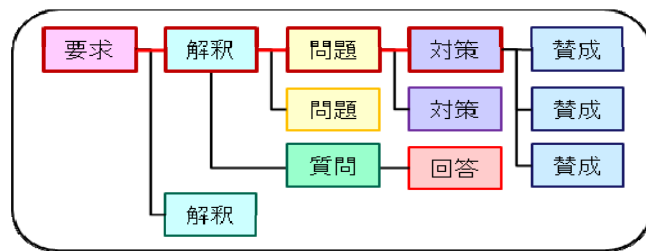
モデルが満たすべき条件(11項目)を列挙し、これらを満たす、議論を行う上で必要となる下記のようなノード(意見を書き込む場所)を抽出した。

- 要求項目ノード：議論の対象となる要求項目
- 解釈ノード：要求項目に対する解釈
- 問題点ノード：解釈の在り方に関する問題点
- 対策案ノード：問題点に対する対策案
- 賛否の意見ノード：対策案に対する賛否の意見
- 質問/コメントノード：質問またはコメント
- 回答ノード：質問/コメントに対する回答

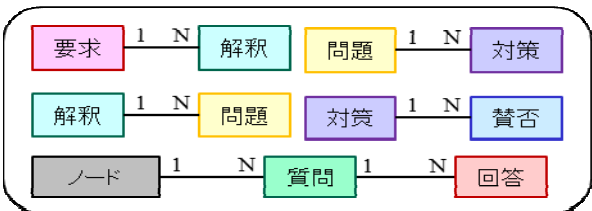
左記に則り議論を行うと、下図のようなツリー状の構造が得られる。



上記のようなツリー構造となるので、全員の賛成が得られたノードから要求項目ノードまでの1本の線を辿り、要求項目ノードから対策案ノードまで(下記の赤太枠)のノードを読むと、議論の結論が分かる。

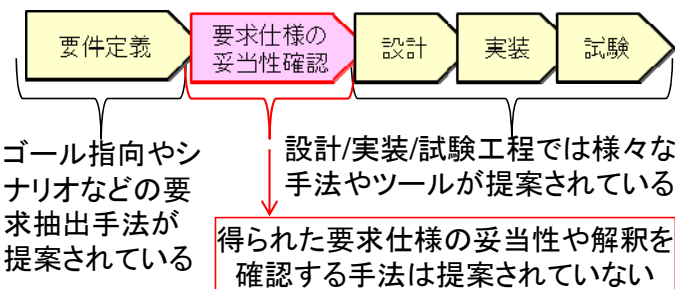


更に、議論が停止することなく収束するように、各ノードから生成されるノードとの関係を以下のように設定する。



開発工程での位置づけ

要求定義工程の終了段階、もしくはその終盤で本モデルを用いてディスカッションを行うことを提案する。



本モデルの効果と今後の課題

◆効果

本モデルに基づくツールを用いて議論することで、要求仕様の不備を指摘・修正するとともに、要求仕様に対する理解(解釈)を開発メンバ全員で共有することができれば、開発したシステムが顧客要求を満たさず、修正を余儀なくされる事態は減少する。

◆今後の課題

本モデルに基づくシステムを構築するとともに、構築したシステムを用いた実験をすることにより、提案したモデルの有効性を評価する予定である。